

# 那珂市議会原子力安全対策常任委員会記録

開催日時 令和2年10月2日（金）午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 武藤 博光 副委員長 花島 進  
委員 石川 義光 委員 古川 洋一  
委員 笹島 猛 委員 君嶋 寿男

欠席委員 なし

職務のため出席した者の職氏名

議長 福田耕四郎 事務局長 渡邊 荘一  
事務局次長 横山 明子 書記 小泉 隼

会議に付した事件

- (1) 東海第二発電所の再稼働問題に関する議員勉強会について  
…東海第二発電所の視察と併せ、第2回目の勉強会の実施を決定
- (2) 東海第二発電所の再稼働問題に関するアンケート等について  
…市民の意見を聴く手法について検討し、「市民と語ろう会」の実施を決定

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 皆さんおはようございます。

開会前にご連絡いたします。新型コロナウイルス感染症対策のため、委員会出席者並びに傍聴される方につきましては、マスクの着用、また、出入り口付近に設置してあります消毒液において手指の消毒をお願いいたします。また、換気のため、廊下側のドアを開放して常任委員会を行います。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

会議は公開しており、傍聴可能でございます。会議の映像は庁舎内のテレビに放送いたします。また、会議内の発言は必ずマイクを使用し、質疑・答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いいたします。また、携帯電話をお持ちの方は電源をお切りいただくかマナーモードをお願いいたします。

それでは、ただいまより原子力安全対策常任委員会を開催させていただきます。本日はご多用中のところ、皆様お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

ただいまの出席議員は5名でございます。欠席委員は笹島委員、所用のため間もなく到着いたします。

定足数に達しておりますので、これより原子力安全対策常任委員会を開会いたします。

職務のため、議長及び議会事務局職員が出席しております。

ここでまず議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長 改めましておはようございます。

本日は原子力安全対策常任委員会、皆さんの出席のもとで慎重なるご審議を賜りたいと、  
こういうふうに思っております。

また、季節の変わり目でございます。大分秋らしくなってきました。ひとつ体調を  
崩さぬように、委員長からの休会中の報告ということで、ひとつ慎重なるご審議を重ねて  
お願いを申し上げます。ご挨拶といたします。ご苦労さまです。

委員長 ありがとうございます。

それでは、まず最初の会議事件といたしまして、東海第二発電所の再稼働問題に関する  
議員勉強会についてを議題としたいと思います。

前回、第1回議員勉強会で出されました主な意見というのが、5つほどありまして、1  
つ目は原発を廃止しようというときに本当に発電量は足りるのか、太陽光で安定した供給  
ができるのかどうか分からないというご意見が1つ目。

2つ目として、市の広報紙で放射線量の測定値が出ているが、この数字が安心なのか危  
険なのか分からない。

3つ目で、周辺市町村の状況や首長懇話会がどのように進んでいるのか知りたい。

4つ目として、電力の中で、火力、原子力、水力、自然エネルギー等、それぞれどれく  
らいの割合で発電しているのか知りたい。

5つ目で、福島第一原発の事故後、二、三年は節電が叫ばれていた記憶があるが、現在  
は聞かない。発電量と消費電力のバランスはどうなっているかなどとの意見が出されたわ  
けでございます。

別紙のほうのテーマで、1から6のほうまでは前回大体行ったんですけども、今後につ  
きましては、7から14についてという問題を議員勉強会を行っていこうというような考え  
がございます。

これにつきまして、議員勉強会を2回行おうということでございましたので、2回目を  
近々、日程調整で行っていきたいというふうに思っております。

開催時期やどのような内容にするかというようなことで、最終的には議員全体で行うわ  
けなんですけども、一応この原子力安全対策常任委員会が主導的な立場で行っております  
ので、前回の気づいた点で、2回目はどんなふうなのがよいのかなってというようなこと  
につきまして、委員の皆様よりご意見賜りたく思いますのでよろしくご審議のほどお願い申  
し上げます。

君嶋委員 前回、勉強会の中でもちょっと私のほうから発言させていただいた現地視察って  
いうのは、今回はそういうのは考えていないんですか。

委員長 現地視察っていうと場所は東海第二原発ですね。

東海第二原発、今いろんな工事を進捗しているような状況でありますので、こちらのほ  
うから申し出をすれば日程は調整していただけるのかなってというふうに思っておりますの  
で、そのような現地調査を踏まえて行くと、これも十分に考えられると思います。

これは一応、日本原電（日本原子力発電株式会社）のほうと、受け入れ可能かどうかについてに関しまして調整はさせていただきます。

君嶋委員 実施するという方向で、その調整ができればやるということですね。

委員長 今、君嶋委員のほうからありましたように、現地調査を兼ねて、その日のうちに見て勉強会も一緒に行くと、そのような日程が組めればよいのかなというふうに思います。

副委員長 あまり言うことはないんですが、やるっていう方向で考えているんでそれによろしいかと思うんですけど、ただ、テーマとしては前回あまり議論がなかった、一応課題として挙げたけどあまり議論にならなかった部分もありますので、その辺は議論にも含めていいかなと思います。

例えば、市の広報紙で放射線量の測定値が出ているけど、数字が安心なのか危険なのか分からないという声もあったんですが、それは低レベル放射線被曝のリスクという範疇です。その辺も議論をしてもいいかなと思います。

あと、周辺市町村の状況や首長懇話会がどのように進んでいるかっていうのは、どっちかというと執行部に聞く話で、多少議論してもいいと思いますが、主なテーマではないかもしれないなど、誰がどう答えるのか難しいと思います。

それから電力の中でのいろんなエネルギー源の比率というのは、私は前から関心を持っているので、昔のやつと現在の状況、それは資料を用意できると思います。

安定供給についても問題がありますね。それもある程度は資料を出せるかなと思っています。

あとは、いずれにせよ一応課題を挙げて自由討論なので、もしこういうことを聞きたいというのが皆さんにあれば、言っていただければ、場合によっては事前に調査するのもやぶさかではないので言っていただけたらと思います。

委員長 前回、議員勉強会を行ったんですけども、石川委員、何か感想とか、こういうふうだったら良かったとか、ご意見等ありましたらお願いしたいと思います。

石川委員 すいません、その前に1つちょっと確認をしたいんですが、今委員長のほうから言われている部分は、7から14までの第2回の勉強会という問いだったんですか、最初は。

委員長 はい、これもひっくるめて、この次の課題はこういうことでやっていきたいと思います。うのような課題で、これが第2回目の検討課題、第1回目はどのような感想をお持ちになりましたかっていうような形をお願いします。

石川委員 第1回目でとりあえず5つ、今日出てきましたけど、さっき副委員長から出たように、これの答えを誰がどのように出してくれるのかっていうのがすごく疑問だったんですが、これをやらないで第2回目に行ってしまうといいのかどうか。

第2回目でも結構難しい部分がたくさんあるので、専門的なことができるのかどうか、その辺がちょっと不安ですね。

（笹島委員入室）

委員長 ただいま笹島委員が出席となりました。

今、石川委員のほうから、前回出されました意見の回答、この回答をどのような形で作成すればよいのかというのと、誰がこれについて答えを出すのかという意見が出たわけでございますけども、結果としてこの内容的には委員会として答えられる内容とそうでもない内容がありますので、これも次の2回目の勉強会までにある程度の答えをつくっておこうと、そのようには思います。

副委員長 幾つかについては先ほど言いましたように、私のほうで一定の答えを出せますけど、それは私の知識とかこれから調べる内容なので、まずそれを聞いていただいて、それでもほかの意見も聞きたいということであれば、また別に考えたらいいかなと思うんですけど、それでどうでしょうか。

例えば、エネルギーをどれくらいの割合で発電しているかという各エネルギー源の割合なんかは、私が話すにしても基本的なデータは前の新人議員向けの勉強会で示したように、エネルギー白書、国からのデータです。ですから、特に私のオフセットが入っているってことはないと思います。

ただ微妙なのは、放射線測定量の測定値がどういう意味を持つかっていうのが、これはもう世の中で考えがすごく分かれるところで、難しいところです。大体の考えを私は紹介はできます。自分の考えとは別に。

そんなところですかね。ですから、この前の意見をほったらかして先に行こうということではないと思います。

委員長 今、副委員長のほうからありましたように、先ほどの石川委員の意見に対する回答っていうのは、ある程度こちらのほうで作成したいと、全議員にお配りしたいと思います。

一応ご意見賜りましたが、第2回目の勉強会は開催するというような方向で皆さんよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

委員長 第2回目の勉強会のほうは、先ほどの君嶋委員からのご意見とかを踏まえまして、事務局のほうと調整して改めて通知させていただきたいと思います。

続きまして、東海第二発電所の再稼働に関するアンケート等についてという議題とさせていただきます。

お手元にご配付のとおり、アンケートの原案を花島副委員長のほうで作成していただきました。それを参考とするわけでございますけども、前回、この委員会において、東海第二発電所の再稼働については広く公平に市民の意見を聞く必要があるという意見がございました。その流れの一環として、市民アンケートも検討すべきではないかというようなご意見も出たわけでございます。

それとともに、議運なりと私のほうもちょっと調整をしたわけでございますけども、市民アンケートの前段階として、前回の委員会でもお話に出ておりましたけれども、私らの

ほうから地域のほうに出向きまして、市民とこの原発問題について語ろう会を開催してはどうかというご意見も出ていましたので、その辺りの協議も含めまして、ご検討いただければよろしいのかなというふうに思っております。

アンケートの原案について、副委員長のほうから若干の説明がありますので、一応ご意見をお伺いいたします。

副委員長 部分的に朱色の印刷をしたやつで、アンケートなんですが、初めにお断りしたいのは、アンケートの形式をきっちりつくっているわけではなくて、主に前文と、それからどうという項目を聞くかっていうことを中心につくっていますのでその点をご了承ください。

朱色で書いた部分というのは、今日の説明のために若干付記した部分です。

まず前文ですけど、市議会として意見分布を調査したいと考えてアンケートをお願いするという趣旨で書きました。

とりあえず、無作為抽出、有権者から無作為抽出で2,000名ということを書いています、2,000というのは仮の人数で、作業量とか予算の都合があれば、もっと増やしたほうがいいかなと思っています。

それで、市が行った避難に対するアンケートについては、どうも世帯主を選んで送ったようですが、今回はそうではなくて、有権者から無作為抽出する形にしたいと思っています。世帯主だけに聞くっていうのは、ちょっと今の世の中の民主主義から言って、ちょっとおかしいと正直思います。

文章を読み上げるのを省略して、次のアンケートについて、アンケートの最初は回答者のプロフィールをお聞きしています。年齢、性別、それからお住いの地区。地区については那珂市の中でも原発に近いところと遠いところがありますので、地区の違いで意見の違い等も見えたらいいかなと思ひまして質問項目に入れました。

次の設問は原子力全般への見方です。これが福島事故の後と前の差を見たいということで、最初、福島原発事故について、原発の安全等についてどう考えていたかということを知っています。

Q5では、今度は福島事故の後です。それからQ6では、事故時の情報提供に対してどういうふうに国とか電力会社は信用できると思っているかということ、まず福島原発事故のときにどういうふうに思ったかということを知っています。

7番目には、福島原発事故の後、国のいろんな体制が変わっています。原子力保安院から原子力規制委員会になって、原子力規制委員会は前と違って独立した委員会になっていることとか、原発の規制基準も変わっていますので、現在と将来の安全について、どのくらい現在の規制体制を信頼しているかというのを聞いています。

8番目は、原発、特に原子力をエネルギー源として使うことについてどういうふうに考えているかっていうのを聞いています。使いたい、使ったらいいんじゃないかと、使ったらいいっていうのはどうぞ使ってくださいって意味じゃなくて、積極的に使ったらいいん

じゃないかというのから、色々懸念があるから反対だという意見とか、色々一応思いつく範囲で並べました。

最後は東海第二原発に限って、再稼働についてどう考えているか聞いています。

概略は以上です。

委員長 説明ありがとうございました。

前回までの委員会において、このアンケートを実施するのに当たっての難しさっていうのも指摘されておりました。

また、市民の意見を聞くという方法につきましては、このアンケートのほかに「議員と語ろう会」のように、こちらから市民のほうに出向いてご意見を賜りたい、直接対話するののもどうでしょうかっていうようなご意見もあったわけでございます。

あと参考ですが、この前東海村で行われました「自分ごと化会議」のシンポジウム等におきましても、何名かの委員も参加されたとは思いますが、そのような内容も経験談として踏まえまして、私ども原子力安全対策常任委員会としては、市民の声を聞くということについても非常に重要性があると考えておりますので、皆様より市民の意見を聞く方法につきましてご意見等を賜りたいというふうに思っております。

笹島委員いかがですか。

笹島委員 ちょっと全般的に難しいね、これ。

5番、6番、7番、福島原発のことばかり聞いてるんですよ。できれば、私はJCO、那珂市で20年前にあったんですけど、そのことを入れてほしいですね。非常に身近に感じたことであって、福島原発はあくまでも福島県のものであって、身近さを感じないんでね。

ですから、今言っていたその2番目辺りにJCOのほうを入れていただいて、3番、4番はいいと思うんですけど、5、6、7はちょっとこれ難しいですね。これはちょっとあまり……

8、9はいいと思いますね。これから、今後原子力をどう思いますかっていう。

この5、6、7を何か変えられれば、もっと易しく、分かるように、これちょっと難しい。

以上です。

委員長 笹島委員のほうから、このアンケートの内容につきまして、若干のJCO事件のことを述べていただきたいというようなお話が出ましたが、これもひとつ考えておきたいと思えます。

あと、福島原発のことが4項目にわたっておりますので、その辺りもある程度集約を図ればいかなというふうに思います。

副委員長 JCOの件については、入れるのは別に入れたらいいと思うんですけど、ただ、事故の質が全く違うんですよ。それを考えると、まさに原発の再稼働の是非というときに、

日本で起きた最大の事故、被害も大きかった、それを抜きにして判断することはできないと私は思っています。

ただ、難しいっていうのは多少は分からなくはないんですが、他からも難しいって意見をいただいていますので。

でも大事なのは、再稼働の可否にくっついて非常に大事なものは、国は一応の規制体制をしいているという考えができるわけです。問題は、それに対して万全の信頼があるんだったら動かしていいという結論しかないんです、私にしてみれば。でも市民の方にとってはそうではないだろうと。

ただ、聞き方についてはもうちょっと工夫してもいいかなと思うんですが、ある意味でここが一番、最後の結論だけじゃなくて、例えば容認するにしても、反対するにしても、なぜなのかっていうところを踏み込んで回答者の方に考えていただいて、それで最後の結論を自分なりに書いていただきたいなと私は思っているんで、まるきり5、6、7を切るっていうのは何かあんまり意味がないとか、なぜあんまり意味がないかという、単純に原発の再稼働の可否についてアンケートっていうのは我々がやらなくても、那珂市だけっていうのは3年前でしたっけ、市民アンケートの中でちょっと一項目あったの以外は那珂市はないですが、東海村なんかでは結構やってるんですよ。

ですから、もうちょっと、なぜ反対するのかとか、なぜ容認するのかっていうことを聞きたいので、難しいから答えられないというところは回答していただけてもいいので、このぐらいの項目は聞きたいなと私は思っています。やるなら。

笹島委員 難しい単語が出てますよね、規制委員会とか保安院とか。それは、答えられない人は答えられなくていいと思うんですけど、将来について、安全性、これはいいと思いますよね。

6番がね、これは関係ないね。電力会社の状況についてどう思いますかって、あまりこれはアンケートに関係ないと思うんで、6は要らないと思うんですね。

5、どう思いますかと、終わったことについてどう思いますかということですよ。

5、6は要らないような気がするんですけど。

具体的に聞きたいようなことっていうんですか、福島原発で終わったことに対してどう思いますかではなく、今ここに、原発の再稼働されようとしているところに、どのように思うかっていうことをもうちょっと、東海原発についても一項目入れてほしいんですよ。一つだけじゃなく。

ごめんなさい、今ちょっと具体的なのは思いつかないんですけど。

副委員長 東海第二原発について1項目入れろというと、具体的な案があればもちろんそれに沿って入れたらいいと思うんですが、ちょっと私はさらに何を聞いたらいいかっていうのは思いつかないですね。

情報提供というのは実はすごく大事で、避難するにしてもどういうふうには逃げるかって

というのは、例えば情報提供に対して信頼があれば、かなり指示に従って円滑に避難できる可能性が高いんですけど、信用されてないと、何かあったら国や電力会社のことは信用できないからもうとにかくぱっぱと逃げるんだみたいなことになって、大混乱になる可能性もあるわけですね。

逆にひどい事態になっているのに伝えられなくて、うまく避難できないということもあるので、6番っていうのは結構大事だと私思っているんです。

それができるかできないかっていうのが、再稼働の可否を考える上での重要なデータになると、広域避難計画がどれだけちゃんとしているかと同じような意味ですね。

笹島委員 この5番、福島原発事故を見て、東海第二原発をどう思いますかくらいの軽い感じで書いたほうがいいと思うんですね。どうですか。

あまり専門家的なことを、堅くあれしちゃうとみんな回答がもらえないから、もっと軟らかい部分も入れておかないと。

花島副委員長のはあれは分かるの、その気持ちは。ただ、一般の人はそうじゃないから。  
委員長 今、笹島委員のほうからこのアンケート内容等につきましてもいろんなご意見が出たと思うんですけども、このアンケートをする前段階として、何回もこの委員会の中で出ておりましたけれども、こちらから出向いて、議員と語ろうというようなことで、原子力安全対策常任委員会として市民との語らいという場を設けてはどうかというような意見も出ておりますので、その辺りいかがでしょうか。

古川委員 まずアンケートのちょっと中身なんですけど、つくっていただいたことにまず感謝申し上げます。

私、前も申し上げましたけど、やはりアンケートって難しいなと思うんですよ。

というのは、これ多分、やってみないと分かりませんが、例えば、分からない、分からない、分からないっていうのがぱーっと来て、最後の再稼働についてどうですかってなったときに、イメージだけで何となく危ないから反対だとか、原子力が必要だから賛成だとかということだけで答えられて、私はその答えだけが、その数が一人歩きしちゃうんじゃないかなという、ちょっと懸念をしますね。

例えば、原子力が必要だからとかって言っても、なぜ必要なのかが分からないですよ。

何となく、その規制が厳しくなって安全そうだから大丈夫だとかって言うんだとしたとしても、どういう規制をしているかも分かっていない方が、イメージだけで安全になったんだろうみたいなことで回答がされてしまうのではないかなっていう危惧をするんですね。そうするとやっぱりこう、どうなんだろう、アンケートって難しいのかなっていう。

それで、今、委員長がおっしゃったような出向いて行って、直接聞いて、こういうデータがありますから危険なんですとか、安全なんですとかって説明できて、納得していただければいいのかなっていう気はしますね、やっぱり。だから直接お話をしたいなっていう。

だから、この間の東海村のシンポジウムもそうですけど、ああいう形で、あれだけでは

ないと思いますが、ああいう形で直接お話をしたいなど、我々がするんじゃなくても、専門家の方が。

我々議会でさえどうなっているんだろう、こうなってるだろう、大丈夫なんだろうかという質問が出てるわけですよね。それに答えていなくてこのアンケートの答えを求めるのは非常にどうなのかなという気がいたします。

委員長 今、古川委員のほうから市民との語る会の開催について、前向きなご意見も出たわけでございますけども、いかがでしょうか、みなさん、一度市民と語る会というのを、例えば市内3か所くらいで催しまして、そこでいろんなご意見等を聞いたり、確認したりするというようなことはいかがでしょうか。

君嶋委員 先日の東海村のを私も視察してきましたんですけども、ああいうやり方というのはなかなか難しいですかね。市民とコーディネーターっていうか、私らじゃなくて専門の方が、中立的な方を見つけて、その方たちが意見を聞くとか、そういうやり方もいいのかなと思うんですけど、その点についてはどうなんですかね。

副委員長 まず、東海村のを私聞いてないので、あのようにつて言わないでいただきたいと思います。

それから、まずこの問題で中立的な方っていうのはいないと私は思っていますね。

私は、東海村は聞いてないんですけど、松江市でやったやつがビデオで載っているのだからと見ました。それで専門家として出ている方は決して中立ではなかった。率直に、私から見て。

君嶋委員 東海村でこの間実施したのは、一般市民、公募で集まった市民と、あとそこに入った方が……

パネルディスカッションで行ったのが、実際にパネラーというか、構想日本の方が中心になってやったのを私ら、視察というか聞いてきましたけれども、その中で東海村の村民の方を集めて、これからもそういう意見を聞くと。そういう場もいいのかなって私はそう思ったのでちょっと提案というか、質問させていただきました。

副委員長 すみません、質問ですが、私が見た松江市のやつは、公募じゃなくて無作為抽出で選んだ方の中からなんです。東海村はどんな感じなんでしょう。

(「無作為です」と呼ぶ声あり)

委員長 今、君嶋委員のほうからも出たんですけども、私もこの「自分ごと化会議」は参加しておりましたので大体内容は分かっておりますので、結局、「議員と語ろう会」にしても、「自分ごと化会議」にしても、やっぱり市民の方との対話、その内容が反対だろうが賛成だろうが中立だろうが、市民の方、村民の方と語るっていう点におきましては問題ないのかなというふうに思っています、きっと「自分ごと化会議」でも、あの会議でもって賛成か反対かっていうのを結論づけるような内容ではないと思います。

あれを参考にして、村長なり、議会のほうで判断するのかなっていうような内容という

ふうにも受けておりますので、やはりこの市民との対話っていうのが今後非常に重要になってくるのではなかろうかなっていうふうに思いますし、市民の方としても一体誰に自分らの意見を言ったらいいのかっていうのが分からないというふうに思いますので、やっぱりこの委員会としてその受け皿となりまして、広く市民の方と対話するような機会ができればいいのかなっていうふうに思います。

笹島委員 東海村っていうのは原発立地の村であって、非常に難しい立場のところなんですよね。

3種類の人がいるんですね、地元民とそれから日製関係の人とそれから原発関係の人っていうので、なかなか今言っていた隣同士とかその地域ごとっていうのは意見を出し合えられないんで、村長も苦肉の策として、原発を自分のこととして考えるということで、皆さんから意見を出してもらって、言ってもらって、自分からそれを聞いて態度を決めるんじゃなく、どういう方向に進めるかっていう非常に軟らかい手法だったんですね。

ただ、那珂市はそういう原発立地で恩恵を受けてないですから、態度ははっきりできるところだと思うんですね。

要するに、そのような人たちも勤めていないし、原発関係の方もここで立地をしていませんし、恩恵も受けてませんから、ということでフリーな立場でできると思うので。

ですから市民も同じだと思うんですね。ですからやっぱり聞くことは一番大事で、単刀直入に聞ける部分もあります。そういうことをあれして行って、周りにそれが影響を与える部分あると思うんで、そういうことをやっていただければと思います。

以上です。

委員長 委員の皆様からも出ましたけども、一度、この市民と語ろう会というのを実施の方向でよろしいでしょうか。

古川委員 それも何度も言ってますけども、やり方を間違えると単なる意見のぶつけ合いになってしまうと思うので、そうではなくて、勉強会というような意味でちゃんと、きちんとしたデータを持って、だからエネルギーは必要なんですよとか、要らないんですよかっていう、きちんとそういう説明が、回答ができないとそれは意味があまりないと思います。

副委員長 その辺はちょっとよく分からないんですが、例えば、自分ごと化会議、松江市の例なんかでは、まず最初に話す人がいて、学識経験者みたいな人がいて、こんな状況ですっていう話があって、そういうのを入れてからっていう意味ですか。

それはもちろん悪くないんですが、それよりも気軽に市民が何を考えているかっていうのを聞いて、我々は聞かれたら自分の考えを言うっていうのでやったほうが、私はさくつとやれると思っています。

講師の選任ってなかなか、さっきも言いましたように中立なんてほとんどいませんから。それをやるとしたら双方の、容認派と反対派、前に我々が学習会でやったように、両方それなりに選んでやらなきゃならないと私は思っています。

ですけども、そうやって手間をかけるよりは、まず我々が市民の声を聞くっていうのをやったらいいと思っています。

私はアンケート案をつくりましたが、前の委員会で言いましたように、アンケートよりはまず市民の声をディスカッションで聞くなり、我々の意見を言うなりやるほうがいいと思っています。かと言って、偉い先生を呼んでどうのこうのっていうよりは、まず率直に皆さんの声を聞く、我々が、あなたどう思っているんだって聞かれたら今思っていることを言う、答えられなかったら難しい問題なのでまだ答えられないとかそういうふうに答えればいいんだと私は思っているんですけど、どうですかね。

古川委員 よろしいかと思えます。

それと、例えば地域に出向くというのは、地域ではどういう方を対象とするんですか、自治会の関係の方とか。

つまり、この前も言いましたけども、偏ったのではちょっとあまりよろしくないと思うんで、できることなら、できるかどうかちょっと別として、無作為抽出みたいな形で地域の方、そこの地域の方の無作為抽出という形はどうなんですか。

委員長 今、古川委員のほうから出たと思うんですけども、基本的に広報なかおしらせ版や、もしくはLINEとかその辺の告知の方法で、例えば、「議員と語ろう会」みたく、幅広く周知して、参加できる方には参加していただくほうが良いのかなと思うんですけど。

笹島委員 今回はあくまでも市民の声を聞くっていう考えなので、私らがどう思っているか云々じゃないんだと思うんですよね。ですから、もっと具体的に言うと情報収集ですよね、どういうふうにしてっていう。

いつもこの中で話していて、同じような話になっていて、ですから今言っていたおしらせ版か何かで知らせて、その方、興味あってもなくても構わないじゃないですか。来ていただいた方と接して、話して、どういうあれかなっていうことで、このアンケートもそうかもしれないですけど、もっと本当の市民の思っている考え方とかっていうことはもっと具体的に分かると思うんですよね。やっぱりそれは早くやるべきですよね。

じゃないといつまでも同じような、ここでまた委員会を持って、どう思うこう思うという市民抜きの話ばかりしててもしょうがないですよ。

だから早くそれをやって、聞いて、そうすれば前にもっと進むと思うんですが、どうですかそれは。

委員長 笹島委員のほうからも出ましたけれども、そのような方法で市民のご意見を伺うと、そういう方向でやれば良いのかなっていうふうに思います。

時期等につきましては、やはりいろいろな、おしらせ版にしてもそういう手続等はある程度時間がかかるとは思います。11月くらいを目途にできればよろしいのかなというふうに思います。そういう方向でいかがでしょうか。

内容につきましては、市民と語ろう会で、こちらから出向いて市民の人は幅広く参加し

ていただくと。

内容としては、意見交換会というようなことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 そのような意見でございますので、今後事務局と相談いたしまして、手続を取っていききたいというふうに思っております。

あとほかにその他のご意見ございますでしょうか。

(なし)

委員長 ないようでございますので、今後の方向性といたしましては議員勉強会の開催、そしてまた、市民と語ろう会の開催というのを今後のスケジュールとしてやっていきたいと思っております。

本日の議題は全て終了いたしました。

以上で、原子力安全対策常任委員会を閉会といたします。

閉会 (午前10時44分)

令和2年 11月 20日

那珂市議会 原子力安全対策常任委員会委員長 武藤 博光